

しずおかの景気動向

平成22年 4-6期

当会議所では、このほど平成22年6月に実施した管内企業の景況調査の結果をとりまとめました。

この調査は会員企業の景気動向を把握し、経営の参考にしていただくことを目的に四半期ごとに実施しているものです。

■ 調査方法

郵送によるアンケート方式

■ 調査対象

- 製造業
- 小売業
- サービス業
- 卸売業
- 建設業

葵区・駿河区：計300社

（回答状況211社）
（回答率70.3%）

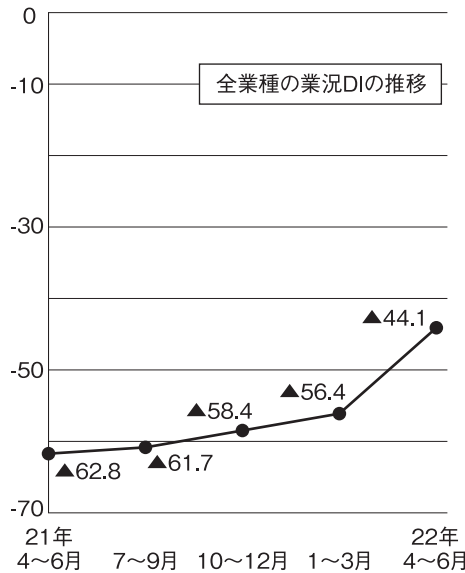
清水区：計200社
（回答状況159社）
（回答率79.5%）

※DII「好転」と回答した企業の割合から「悪化」と回答した企業の割合を差し引いた数値。

葵区・駿河区

1 前期と比べて

全業種の業況DIは△44.1で、前期（平成22年1月～3月期）の△56.4と比べ、マイナス幅は12.3ポイント縮小し、5期連続で緩やかな業況の回復傾向を示しました。



2 来期の見通し

来期（平成22年7月～9月期）の見通しDIは全業種で△30.8で、今期に比べマイナス幅が13.3ポイント縮小し、業況はさらに回復するという結果となりました。

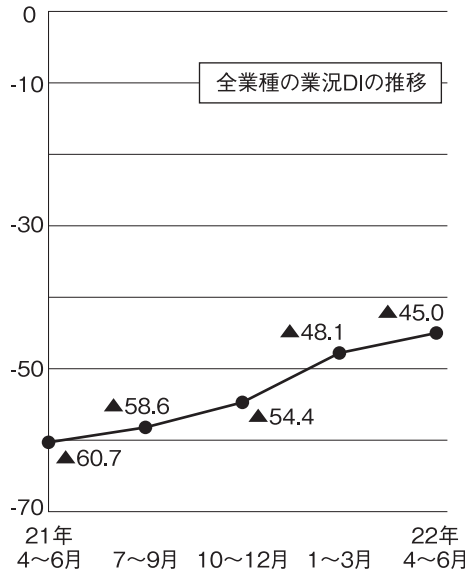
3 経営上の問題点

製造業は「需要の停滞」、建設業は「請負単価の低下上昇難」、卸売業は「需要の停滞」、小売業は「需要の停滞」、サービス業は「利用者ニーズの変化への対応」が経営上の問題点のトップに挙る結果となりました。

清水区

1 前期と比べて

全業種の業況DIは△45.0で、前期（平成22年1月～3月期）の△48.1と比べ、マイナス幅が3.1ポイント縮小しました。業種別に見ると、建設業ではマイナス幅が拡大、卸売業がほぼ横ばい、製造業、小売業、サービス業では、マイナス幅が縮小し、業況の改善傾向を示しました。



2 来期の見通し

来期（平成22年7月～9月期）の見通しDIは全業種で△36.9と今期に比べてマイナス幅が8.1ポイント縮小するという結果となりました。

3 経営上の問題点

製造業は「需要の停滞」、建設業は「民間需要の停滞」、卸売業は「需要の停滞」、小売業は「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業は「需要の停滞」が経営上の問題点のトップに挙る結果となりました。